



普通科



平成 24 年度「学力向上フロンティア校」に**5年連続**指定！
 自主性・自立心を育てる取組を通して、バランスのとれた人格の形成を目指します。

◇普通科の学びの場面を紹介◇

1 年生 表現力・情報処理力を磨く～新聞活用セミナー～

本校では、「学力向上フロンティア校」支援事業の一環として、朝日新聞社と連携し、1年生を対象に新聞活用セミナーを実施しています。この取組は、小中学校で学んだ新聞への興味・関心をさらに広げ、その活用能力を段階的にステップアップさせることで、情報過多の時代に必要な情報を取捨選択し、自分の考えにつなげていけるよう支援するものです。



朝日新聞社から講師の先生をお迎えし、膨大な情報量である新聞を毎日読んでいくためにはどうすればよいか、実践を通して学んでいくことができました。

また、朝日新聞第一面のコラム「天声人語」の書写しを行い、意見や要約をまとめていきました。優れた文章の表現方法を手本として真似ることで、語彙（ごい）力を高めるとともに、幅広い考え方や価値観に触れ、表現力向上につなげていくという取組です。

1月には、再び講師の先生をお招きし、新聞から必要な情報を読み取る手法を、さらに段階を踏んで御教授いただきます。また、ディベートの方法、小論文の書き方などについても、詳しく御講演いただく予定です。

2 年生 文章表現力をさらに鍛える～小論文模試・講演会～

2年生では、読解力・表現力をさらに鍛え、大学受験につなげていくための取組として、小論文模試を実施しています。

1年生で培った考える力、書く力を、自身の文章の中に活かしていくために、まずは小論文を書き、講演会で文章の書き方のコツや知識を学び、さらにリライト（もう一度同じテーマについて書直す）することで、独自の文章表現力を確立していきます。

また、1、2年生の希望者を対象に、「語彙・読解力検定」を実施します。自分の持つ語彙・読解の能力を、客観的に知る

ことにより、知識力向上への指南となる取組です。昨年度は受験生全員合格！今年も全員合格をめざします！





「みらい」の窓 ～セミナー・講演会の感想～



「新聞活用セミナー」を受けて

1年4組 新田 直生 さん
(福知山市立成和中学校出身)

僕は今まで、ほとんど新聞に目を通していませんでした。ニュースは全てテレビやケータイで見えていました。しかし、今回の新聞活用セミナーを受けて、今まで僕は結構もったいないことをしていたのだと思っています。

朝日新聞社の講師の方は、新聞は宝の山だとおっしゃっていました。新聞を読むことで、ニュースだけでなく言葉や漢字、文章力など身につくものはいくらでもあります。さらに、知りたいニュースを自分のペースで知ることができて、勉強するにはとっておきの教材です。

僕は毎朝時間に余裕がないので、新聞を読もうと思いませんでした。テレビで確認した方が速いからです。でも、新聞とテレビ・ケータイとでは、学ぶ量の差に気づかされました。僕はこれを良い機会に、毎日10分でも新聞に時間を割いてみようと思います。そして、そこから僕の苦手とする文章力・語彙力を高めていきたいです。特に、天声人語のようなコラムを読み続けていきたいです。



新聞記事に興味を持つ1年生

1年3組 佐藤 綾香 さん
(福知山市立日新中学校出身)

最近の人は、新聞ではなく、テレビのニュースなどで情報を手に入れることが多いそうです。確かにテレビを見るほうが楽かもしれませんが、新聞は記録に残る、という利点があることが分

かりました。また、今回のセミナーでは、新聞の読み方も詳しく教えていただきました。

新聞の利点は他にも、テレビでは省略されやすい事柄も、新聞なら読むことができます。だから、朝10分程度読むだけでも良いらしいです。「天声人語」は、毎回603文字と決まっています。書き写して勉強するのにちょうどよく、正しい言葉が身につきます。私も時々間違った言葉遣いをするので、天声人語の書き写しをしてみようと思いました。

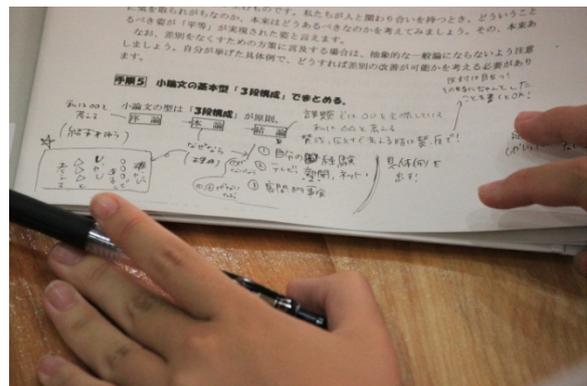
また、朝10分程度読むだけでいいのなら私にもできそうです。頑張って新聞を読んでみようと思いました。

「小論文講演会」を聴講して

2年5組 川北 真由子 さん
(綾部市立豊里中学校出身)

前回の小論文模試では、自分の考えたことをそのまま書き、内容も薄くて評価は良くありませんでした。今日講演を聴いて、「感情を表す表現、倒置、体言止めはなるべく使わないほうがいい」など、意外に思うところがたくさんありました。また、なるべく1つのことに絞って、より具体的に、より深く書くことが大切だと教わったので、書くときには問われていることをよく理解し、考えてから書こうと思いました。

私は文章を書くことが苦手だけれど、まずは「序論→本論→結論」を意識すること、誤字や間違った表現をなくすこと、深く掘り下げて書くことに気をつけてみようと思います。



熱心に講演のメモをとる2年生